

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年4月21日～2018年4月27日の推移】

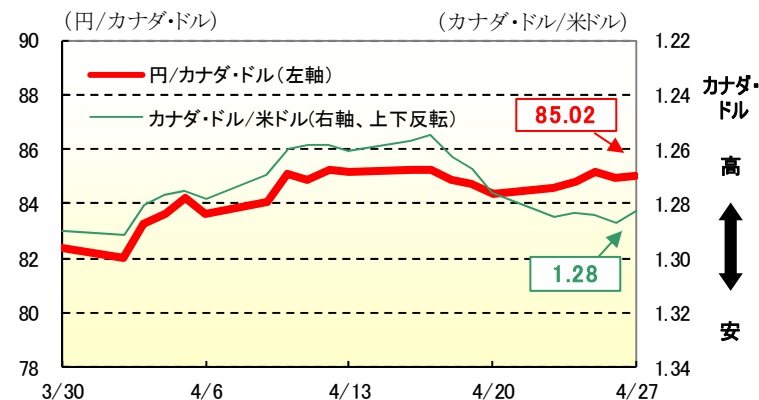
【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は小幅に上昇し、カナダ5年国債利回りは小幅に低下しました。

先週は、特段重要な経済指標の発表はありませんでしたが、カナダ銀行のポロズ総裁がカナダ経済に対して前向きな発言を行ったことなどが、カナダの金利やカナダ・ドルの上昇圧力となりました。一方、月末にかけては金利の低下圧力が強まりました。

【カナダ・ドル 為替推移】

(2018年3月30日～2018年4月27日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

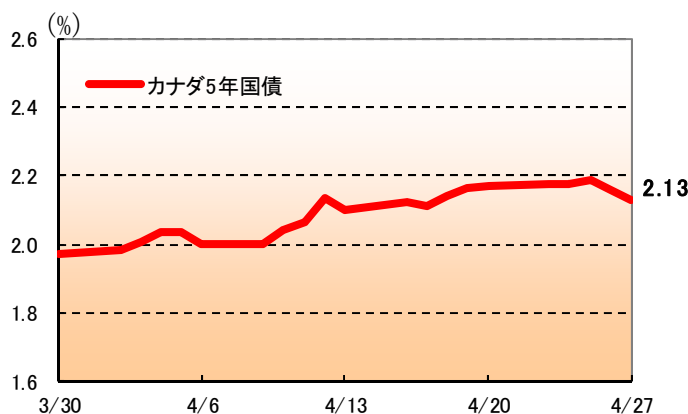
【2】今週の見通し

今週、カナダではGDP(国内総生産)や貿易収支の発表があり、米国では政策金利、貿易収支、雇用統計などが発表されます。米国の政策金利について、今回は据え置きが見込まれますが、カナダや米国の経済指標が堅調な結果となり、市場の利上げ期待を高めることとなれば、カナダの金利やカナダ・ドルの上昇圧力になるとみています。

また、先日、米国のムニューシン財務長官と通商代表部のライトハイザー代表が近く中国を訪問し、貿易問題について協議すると報じられました。米中貿易交渉が本格的に始まり、両国の緊張が緩和した場合には、市場のリスク回避的な姿勢が後退し、金利上昇圧力や円安圧力が高まるとみています。

【カナダ 金利推移】

(2018年3月30日～2018年4月27日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>